

図書館通信

静岡大学附属図書館報

No.138



2001. 12

電子ジャーナル特集号

◎図書館の「ビロード革命」 ◎電子ジャーナルをめぐるあれこれ ◎文系電子ジャーナルの利用・活用と可能性

◎静岡大学における電子情報サービスの展望

●講演会のお知らせ ●教官寄贈本の紹介 ●図書館の動き ●卒論生・修論生情報収集講座報告 ●図書館開館案内

図書館の「ビロード革命」－電子ジャーナルの世紀へー

附属図書館長 大江泰一郎

附属図書館にいま静かな革命が起ころうとしている。この11月14日、第4回附属図書館委員会（於西部キャンパス）の進行を担当していてそう感じ、自らある種の気持ちのたかぶりを禁じえなかった。

この会議では附属図書館の総合整備計画（第1次）案、そしてその具体化の一環としての電子ジャーナル等の導入案が審議され、原案が基本的に了承された。後者の図書館「電子化」は、前者の総合整備計画の重要な構成部分をなすものである。総合整備計画案は、図書館の運営をあずかる側からいえば、資料の「集中化」などを主たる柱としており従来の図書館のイメージをかなり抜本的に変革しようとする企図に出たものであった。電子ジャーナル導入の確かな一歩が踏み出されたということは、この大きなプロジェクトが滑り出し始めたということの意味する。

今回の電子ジャーナル等の導入とは、具体的にみれば、大手出版社であるエルゼビア社、アカデミックプレス社、ワイリー社、シュプリンガー社（ブラックウェル社については交渉継続中）の電子ジャーナル、雑誌タイトル数にして約1,750（電子化による純増タイトル数で約1,500）と、二次資料 Chemical Abstract の Web 版（SciFinder Scholar）を来年度につき購読契約しようというものである。利用者側からみた電子ジャーナルのメリットについては、この特集号で他の方々が書いてくださるはずだから小文では立ち入らないが、これは、21世紀の大学の知的インフラストラクチャーを築く上で「生命線」をなすものであって、いま全国的にもきわめてホットな焦点となっているところである（各出版社との直接の交渉には国立大学図書館協議会の特設作業班があたり、本学の場合もその大きな恩恵に与っている）。

だが、電子資料の問題に限ってみても、計画に係わる問題はまだ山積している。一つはむろん予算の問題。この電子化には1千万円弱の資金が必要とされる（大規模大学では億のオーダーの予算が見込まれている）が、今回その大部分は附属図書館の運営費（光熱費・人件費等を含む「生活費」）からたいへんな苦勞をして捻出したものである。SciFinder のほうは大部分が「受益者負担」にまだ頼っている。専門分野とくに自然科学と人文社会科学とのバランスをどうとるか、という大きな問題も未解決である。2003年以降はどうするのか？

まだ確たる目途はたっていない。この辺りを突破しないとほんとうの革命には道が拓けないことはいうまでもない。

来年の1月23日には本学内で、このテーマに関連し、先進例をつくっている千葉大附属図書館長の土屋俊先生をお招きして、講演会を予定している。状況認識を共有し、学内世論の形成をはかっていくためにもぜひご来場をお願いしたい。

いま全国の国立大学を揺るがしている「改革」旋風には、合理的な理念に欠けるところ無しとしない。しかし、その理念は上から降ってくるわけでもない。それをつくるのは私たち大学人をおいてはいないのだ。「護送船団」方式で戦後ずっとやってきた私たちが、ほんものの大学の自治をつくる季節がやってきたのだと考える。図書館の改革はその一端をなすものなのである。

(人文学部法学科比較法文化論)



電子ジャーナルをめぐるあれこれ

関根 理香

電子ジャーナルについての記事を書くことになったので、電子ジャーナルが大好きなある学生（仮に A さんとする）に話を聞きました。

私「Aさん、電子ジャーナル(*1)好きだよね。どうして？」

A「だって、図書館までいくの面倒くさいもん(*2)！！わたしあまり図書館が好きじゃないんだ。」

私「面倒くさいっていうのはよくわかるけど、好きじゃないっていうのは？」

A「なんか、図書館で本棚がずらっと並んでいて(*3)、息苦しくなるの・・・」

(図書館の職員さん、ごめんなさい。)

私「そりゃあ大変ね。で、電子ジャーナルのいいところってどんどこだと思う？」

A「そりゃもう、文献検索が簡単にできるところ(*4)。あと、お金がかからないのもいいところかな。

あっでもたまに『パスワードをいれてください』っていつてくるところもあって(*5)、あれはむかつく！！！」

私(あわてて)

「ちょっと待ってよ、何でも『ただ』って言うのはないんだよ(*6)。静岡大学でとっている雑誌だから自由にダウンロードができたりするんだからさあ・・・(以下しばらく、電子ジャーナルの料金体系について説明。)それで、Aさんは一つの論文をダウンロードするのにいくぐらいなら妥当だと思う？」

A「100 円ぐらいかな(*7)。」

私「うん、私もそんなもんだわ。」

<会話の註>

(*1) まじめに(特に自然科学の)研究者として生きていこうと思う者にとって、文献検索は欠かせない作業です。最新の研究成果をできるだけ早く世界中から入手するには、今やインターネットがもっとも確実かつ安価(インターネットの幹線整備に税金が大量に導入されていることを度外視すれば)な方法です。電子ジャーナルは、このインターネットで雑誌が配信されてくるシステムです。

(*2)研究室のパソコンの前に座ったままで文献が手にはいるのですから、こんなにお手軽なことはありません。雨の日だろうが風の日だろうが、深夜だろうが休日だろうが、いつでも必要なときに文献を入手することができます。文献を探してコピーをとるという作業は結構エネルギーのいる作業です。運動不足の解消にはよいかもしれませんが。

(*3)電子ジャーナルの特長の一つは「場所をとらない」ということです。だいたい雑誌なんて、通読するものではありません。全体はデータベースに、読みたい論文はパソコンに、本当に熟読する必要があるもの(コメントを書き込む必要があったり、風呂の中でもよみたい!というもの)だけ印刷するというのが理想的でしょう。我が家にも研究室にも、いつか読むかもしれないととりためた論文のコピーがあふれかえっていて、どうしたものかと途方に暮れています。

(*4)電子ジャーナルの大きな魅力のひとつは、検索機能を併せ持っていることです。もちろん、Chemical Abstracts や SciFinder のような情報検索データベースを使ってもいいのですが、この分野ならこの雑誌、あるいはこの出版社、などということがある程度絞込まれていれば、雑誌の web サイトもしくは出版社のサイトに直接行って探すやり方もあります。これらのサイトには検索機能をもったページがたいていついていて、キーワードから文献を探すことができます。

(*5)せっかく目的の論文の題名や抄録までは手に入れたのに、いざ本文をダウンロードしようとしたときに拒否されたり、パスワード入力を要求されるのはとても悲しいことです。

(*6, *7)電子ジャーナルは「無料ジャーナル」なわけではありません。費用の負担が見えにくいし、「一部 100 円」のような形で課金するシステムをつくるのも難しいでしょう。電子ジャーナルによっては IP アドレスの前方一致(ドメイン)で制限を設けていたり、あるいは前述のようにパスワードで管理していたりしますが、適正な料金システムが構築されるにはまだまだ時間がかかるかもしれません。

(理学部化学科機能化学)

文系電子ジャーナルの利用・活用と可能性

ー法情報データベースの利用からー

国京 則幸



現在、さまざまな文系の電子ジャーナル・データベースが構築され、研究・教育にも活用されている。ここでは、そのような文系の電子ジャーナルのうち、特に法情報データベースに焦点を定めて、その利用・活用の現状と可能性について述べたい。

1. 文系電子ジャーナル・データベース

法学の分野においても、これまでの冊子体の雑誌・判例集等から電子ジャーナル化が進みつつある。既に主要な法学関係雑誌、判例データベース等について、CD-ROM、DVD-ROM を媒体とする電子ジャーナル化が、商業ベースで進んでいる。

このような法情報に関する電子ジャーナルのうち、特に注目したいのは、判例データベースである。これは、法学の研究・教育、そして学生の学習においても、もっとも活用されるべき素材の一つであり、電子ジャーナル化されることでさまざまなメリットを期待できるものである。このような判例データベースは現在、オンラインでも利用可能なものとなっている。日本の法学系データベースと外国の法学系データベースをそれぞれひとつずつ取り上げ、概要とその利用状況等について紹介したい。

(1) 日本の判例データベース

国内の判例データベースとして、LEX/DB[*1]がある。これは、オンラインで検索のできる判例データベースである。

このデータベースには、明治8年の大審院判決から現在に至るまでに公表されてきた判例が網羅的に収録されており、検索した判例について、基本的に全文表示できる。

これまでの冊子体の判例情報と大きく異なりかつ優れていると考えられる点は、

- ①「キーワード」のみからでも、関連する裁判例を網羅的に収集することができる点、
 - ②地方国公立では必ずしも十分には揃えることのできない特殊領域の裁判例をも検索し利用できる点、
- などを挙げることができよう。また、電子ジャーナル化されたCD-ROMまたはDVD-ROM形式の判例データベースは存在するが、これらと比べたときも、更新頻度や一度に利用できる人数という点から、オンラインの方が優れているといえる。ただし、データベース利用の際の共通の課題であるが、検索の仕方（操作方法ではなく、検索のコツ）にある程度習熟する必要がある点などは留意すべきであろう。

このようなオンラインの判例データベースの登場により、学生や法学を専門としない人にとっても比較的「気軽に」裁判例を検索し、検討することができるようになる。

(2)外国の（判例）データベース

外国の判例データベースとして最も有名なもののひとつが、総合学術データベースであるLEXIS/NEXIS[*2]であろう。ここに所収されている情報は、国でいえば、アメリカをはじめ、イギリス、カナダ、ニュージーランド、EU、ロシア、香港等におよび、情報内容も、これらの国の最新ニュース、現行法令、裁判例、及び雑誌論文（法学）等の他、各国の新聞（地方紙を含む）、雑誌等のニュース、ビジネス情報、医薬情報、人物情報・国情報等のレファレンスなどの情報も利用可能である。

このデータベースは、特に英米法研究には必要不可欠のものである（人文学部法学科では導入実績がある）。しかし実際の利用はこれにとどまらず、広く経済学・社会学といった他の文系諸科学や理系の研究においても活用できるものとなっている。

2. データベース利用・活用の可能性

法学においても、上記のような電子ジャーナル・データベースが普及・広くは、いわゆるIT化を含めて一することによって、今後、研究上必要な情報を探すための、いわば新しい現代的「能力」が求められるようになり、このことが伝統的な学問のあり方にも影響を与えると考えられる[*3]。端的には、「調べる」ことから「考える」ことへの比重の移行となるのかもしれない（原点への回帰？）。そうであるならば、このような環境の変化にどのように対応していくのか、情報に埋没することなく真に「考える」力を高めるためにどうしたらよいのか、を今後さらに積極的に模索していかなければならないであろう。

*1 TKCが提供するもので、現在、図書館で試用できる。

*2 レクシス・ネクシスジャパン株式会社提供。

*3 鹿児島大学で「情報技術革新と法科大学院教育」（2001年11月3日）というシンポジウムが行われ、ITが法学教育に与える影響・可能性について議論された。

（人文学部法学科社会生活法）

図書館講演会のお知らせ

『変革期に立つ大学図書館』

平成14年1月23日(水) 13:30～16:45 静岡大学大学会館ホール

講演 ・「大学図書館統計データと図書館評価をめぐって ―現状と課題―(仮題)」
山口大学附属図書館情報管理課長 中野 美智子 氏

・「大学改革の核としての大学図書館の姿」
千葉大学附属図書館長 土屋 俊 氏



静岡大学における電子情報サービスの展望

－ 2002年に向けて－

電子ジャーナル

■現状

2001年11月現在、附属図書館ホームページ上でリンクを張って提供している電子ジャーナルは370タイトルです。冊子体を購入することにより利用できるものがほとんどです。

提供されるサービスは主にコンテンツ及び抄録、全文テキストで、論文単位でアクセスする検索機能が用意されている場合もあります。電子ジャーナル化の進んでいる科学技術分野が多いのですが、社会、教育、言語等の分野のものもあります。ホームページ上にアルファベット順のリストを用意していますのでご覧ください。なお、アクセスするためにはまず図書館が機関としての登録手続きを行なっていますが、出版社ごとに条件や方法が異なるため、アクセス可能なもの全てを登録できていません。全学で、又は図書館から利用できるものについては今後情報収集を行い、アクセス環境を整備する努力をしていきます。

■2002年の新しい動き

静岡大学は国立大学間で形成するコンソーシアムに参加して学術雑誌出版社4社の提供する有料電子ジャーナルを2002年1月から導入することになりました。コンソーシアムに参加することで購入タイトルよりも多くの電子ジャーナルにアクセスすることが可能になります。

出版社	電子ジャーナルサービス	2002年購読タイトル数	アクセス可能タイトル数
Academic Press	IDEAL	23	約250
Elsevier	Science Direct	104	約700
Wiley	Wiley InterScience	13	約320
Springer	LINK	38	約480

この4社が提供する電子ジャーナルは科学・技術・医学分野が中心ですが、Wiley社は経済分野、Elsevier社は社会、産業や環境など幅広い分野のコレクションを形成しています。また、機能面では検索機能が充実しており、速報性（例えば印刷される以前に論文にアクセスできる）にも優れています。今後具体的なタイトルリスト、使用規約、使用方法などはホームページ上で公開していく予定です。

なお、Blackwell社の電子ジャーナルは、契約条件が整い次第導入する方針です。

SwetScan (外国雑誌目次情報検索システム)

スウェッツスキャンは、オランダのスウェッツ社が提供する、自然科学から人文科学に及ぶ約 14,000 タイトルの外国雑誌のコンテンツ情報をネットワークを通して閲覧・検索するシステムです。本システムにより、従来紙の形で配布されていたコンテンツシートサービスは電子メールで配信され、論文タイトル、著者名、雑誌名からの検索が研究室から可能となり、またそれらのキーワードを登録することによりその結果を電子メールで配信することも可能となります。OPAC ともリンクされているので資料の有無をその場で確認でき、OPAC でヒットしない論文は文献複写の依頼画面で複写依頼をすることもできることなど、教育研究上必要な機能が整備されています。利用は 2002 年 2 月からの予定です。

Digital Library System(DLS) (電子資料管理提供システム)

デジタルライブラリーシステムは、CD-ROM ジュークボックスに大量の CD-ROM を格納し、分類・登録後、利用者端末のメニュー画面より CD-ROM を検索・利用するシステムです。サーバーとジュークボックスは事務室内に、利用者用端末は本館の 5 階ハーベストルーム(予定)と浜松分館の 1 階閲覧室に各 5 台設置されます。利用者はご希望の CD-ROM を、画面を見ながら呼び出して閲覧利用することができます。

今後図書館は、電子資料である CD-ROM、DVD-ROM を順次購入してマルチメディア資料を充実していくつもりです。又、紙媒体として図書館が所蔵する資料をスキャナーにより電子化していく作業にも取り組む予定ですが、それらの資料もこのシステムで閲覧が可能となります。利用は 2002 年 2 月からの予定です。

SciFinder Scholar (CAS 提供科学関連データベース)

現在、本館と分館で購読している CA on CD (Chemical Abstracts CD-ROM 版) を中止して、2002 年 1 月から SciFinder Scholar に切り替えることになりました。SciFinder は、化学を中心とする医薬、生化学、物理、工学、農学等を包含する世界で最も広範囲に収録された科学情報データベースで大学研究者にとって必須の 2 次資料です。このサービスは研究者自らが利用することを想定したエンドユーザー向けのオンライン検索サービスで、包括的に科学関連情報にアクセスが可能で効率よく研究活動を行うことができます。

2002 年分の SciFinder は CA on CD 購読研究室と図書館との経費負担により導入しましたが、今後は図書館が進めている電子ジャーナルを始めとした電子化資料の基盤整備の一環として共通経費化をめざしていくつもりです。利用方法は図書館のカウンタ(本館は参考カウンタ)にお尋ねください。

《 教官著作寄贈図書一覧 》

*このリストは本学教職員により著作(等)され図書館にご恵贈された図書を一覧にしたものです

●本館受入

- ◇ 熊野善介, 丹沢哲郎 (教育学部) 全米科学教育スタンダード 長洲南海男監修 梓出版社 [372.53/N57] <訳>
- ◇ 本多隆成 (人文学部)
 - ・ 法多山の田遊び 袋井市教育委員会編 [386.8/F82] <執筆>
 - ・ 十二所居館 浅羽町教育委員会編・発行 [210.2/SIZUO/1387] <執筆>
- ◇ 狩野謙一 (理学部) 南アルプスの山旅 村松武ほか編 飯田市美術博物館 [291.52/MI37] <執筆>
- ◇ 川瀬憲子 (人文学部) 市町村合併と自治体の財政:住民自治の視点から 自治体研究社 [318.12/KA97]
- ◇ 荒川紘 (人文学部) 日本人の宇宙観:飛鳥から現代まで 紀伊國屋書店 [440.21/A63]
- ◇ 人文学部文化人類学研究室 Psychosomatic responses to modernization and invention of cultures in insular Southeast Asia [389.24/P95] <発行>
- ◇ 溜渕継博 (理学部) 計算物理学入門 ゴールド、ドボチニク著 ピアソン・エデュケーション [421.5/G73] <監訳>

----- 図 書 館 の 動 き -----

◆会 議

設置について

2. 図書館システムの更新について

平成13年度第3回静岡大学附属図書館委員会

平成13年9月26日(水)

○審議事項

1. 附属図書館総合整備計画について
2. 高度情報化(電子ジャーナル)について
3. 附属図書館自己点検・評価実施委員会委員の任期の延長について
4. 附属図書館施設計画(大谷キャンパス)について

○報告事項

1. 静岡大学附属図書館利用学生モニターの

平成13年度第4回静岡大学附属図書館委員会

平成13年11月14日(水)

○審議事項

1. 附属図書館総合整備計画(第一次)の策定について
2. 電子ジャーナル等の導入について

○報告事項

1. 附属図書館利用学生モニター会議について
2. 卒論生・修論生のための情報収集講座について

卒論生・修論生のための情報収集講座(実践編)終了 !!

去る10月15日から26日にかけて、卒論・修論作成のための情報収集講座を6回実施しました。参加者は昨年より12名増の56名でした。今年度はゼミ単位での参加も3クラスあったため予定の期間を1週間延長した2週間での実施となりました。この講座は、卒論・修論作成に向けてネットワーク上の各種情報を活用するノウハウを身に付けることを目的に、少人数で丁寧に分かりやすくをモットーに、検索テーマを持っている学生はそのキーワードで、いない学生はこちらで用意した20問の演習問題を使い実習しました。講座は90分の構成になっており、最初の30分は、図書館がサービスするCD-ROMと最新のインターネット情報及び電子ジャーナルの利用についてプレゼンテーションした後、残りの60分は自由に検索問題に取り組んでもらいました。講座終了後のアンケートでは30名が非常に良かった、残りの26名が良かったとほとんどの参加者から役に立ったという回答をいただきました。

来年の1月には図書館システムも更新され、また、海外の学術雑誌の目次情報であるSwetscanやElsevier社、Academic Press社、Springer社及びWiley社の電子ジャーナルも導入され電子的な環境が整備されます。附属図書館ではこれらのツールを使い内容的にも更にレベルアップし、装いも新たに「卒論・修論セミナー」としてますます充実させていきたいと考えています。ご期待下さい。

冬休みのお知らせ

本館（静岡）

●年末年始の予定

2001年12月						
日	月	火	水	木	金	土
16 休館	17 9:00～22:00	18 9:00～22:00	19 9:00～22:00	20 9:00～22:00	21 9:00～17:00	22 休館
23 休館	24 休館	25 9:00～17:00	26 9:00～17:00	27 休館	28 休館	29 休館
30 休館	31 休館					

※12月27日(水)は館内清掃のため臨時休館します。

2002年1月						
日	月	火	水	木	金	土
		1 休館	2 休館	3 休館	4 休館	5 休館
6 休館	7 9:00～17:00	8 9:00～17:00	9 9:00～17:00	10 9:00～17:00	11 9:00～22:00	12 11:00～19:00

●返却期限日の変更

平成13年12月3日（月）から平成13年12月26日（水）までに貸出した図書の返却期限日は、次の通りです。

平成14年1月17日（木）

分館（浜松）

●年末年始の予定

2001年12月						
日	月	火	水	木	金	土
16 休館	17 9:00～21:00	18 9:00～21:00	19 9:00～21:00	20 9:00～21:00	21 9:00～17:00	22 休館
23 休館	24 休館	25 休館	26 休館	27 休館	28 休館	29 休館
30 休館	31 休館					

2002年1月						
日	月	火	水	木	金	土
		1 休館	2 休館	3 休館	4 休館	5 休館
6 休館	7 9:00～17:00	8 9:00～17:00	9 9:00～17:00	10 9:00～17:00	11 9:00～21:00	12 9:00～17:00

●返却期限日の変更

平成13年12月8日（土）から平成13年12月21日（金）までに貸出した図書の返却期限日は、次の通りです。

平成14年1月11日（金）

 静岡大学附属図書館報「図書館通信」 第138号 （平成13年12月1日発行）

発行所 静岡大学附属図書館 〒422-8529 静岡市大谷 836 Tel. 054-238-4475 Fax. 054-238-5408

URL <http://www.lib.shizuoka.ac.jp/home.html>

（再生紙使用）